

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 8月 30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102769		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい矢野		
所在地	〒736-0085 広島市安芸区矢野西五丁目18-30		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102769-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年8月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

民家改造型のグループホームです。毎日をほとんど全員がリビングで過ごし、体操や手作業をしたり、食事の準備を一緒にしています。季節に合わせて、プランターや畑で花や野菜を育て、水やりや草取りをしながら成長を楽しんでいます。季節ごとの行事やお誕生日会では、希望の献立にし喜んでいただいています。日々の生活をリハビリとしてとらえ、できる事が継続できるように支援しています。開設当初よりの看取りを継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

民家を改修した事業所であり、家庭そのものの造りの中で人との距離が近くアットホームな雰囲気の中で落ち着いて過ごせる環境がある。利用者の得意なことが継続でき、個人の思いや気持ちに寄り添い働きかける関わりを重視し尊厳を尊重した取り組みに努めている。食事は三食手作りにて提供し、毎週火曜日は刺身の日を設け、朝食もパン食を織り交ぜたメニューにて提供しており、お好み焼きをしたりホットケーキ作りなど調理レクにて食への楽しみが深まる取り組みがなされている。町内会加入や地域行事での交流をはじめ、地域とも身近であり日頃から畑を耕すことを手伝ってもらえたり、声を掛け気にかけてもらえる関係性を構築し、地域に馴染んだ運営を行っている。法人で多数のグループホームを展開しており、医療面や災害など有事の際は協力を得ながら支援を行い、利用者の安心できる生活の支援体制を構築している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	美泉開設当初よりの理念をもとに、目標をたて取り組んでいる。半年で、振り返りを行っている。毎朝、申し送り時に唱和し意識付けしている。	法人理念をもとに介護職員、看護職員それぞれの立場の視点から着目した姿勢や支援方針を明確にし、意識を持ち実践に努めている。事業所年間目標も職員の身近に感じることから検討し、策定している。今年度は健康、衛生・感染予防の徹底、体調維持を目標に掲げ取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、役員を順番で受けている。地域の祭りでは、獅子舞や神輿など事業所に来て頂き、季節を感じながら楽しんでいる。	町内会に加入し毎年会合の出席や公園の掃除など地域の活動を行っている。神社の祭りの手伝いを行う他、子供神輿の来訪にて交流や小学校から運動会の案内があり参加をしている。日頃から声を掛けてもらえたり、畑を耕すのを手伝ってもらうなど地域と身近な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学時や面会時に、相談や質問を受けお答えしている	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二カ月に一回開催し、事業所での活動や様子を報告している。地域の状況を伺いながら、行事の参加などを検討している。	家族をはじめ、町内会長や地域住民、地域包括支援センター職員の参加があり意見や情報交換を行っている。地域からは畑のアドバイスやカラオケの誘いなどがあり、地域包括支援センターからは感染症や熱中症などへの注意喚起や情報提供を受け活動や事業運営に反映させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	福祉のお世話になっている利用者の通院時には状況を連絡している。面談時には付添、日頃の様子を伝えている。	運営推進会議にて地域包括支援センターと情報交換を行い関係性を構築している。市の担当者とは法人本部が主として確認事項や空き状況を伝えるなど情報交換を行っており、随時事業所へ伝達、連携を図り共有している。生活保護利用者への支援も生活課と適宜連携を持ち行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会で学んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。言葉による拘束や、自力で動けない利用者を椅子や車椅子に座りっぱなしにしないよう気を付けている。身体拘束の委員会を定期的に行い事案の検討をしている。</p>	<p>3ヶ月毎に法人グループ全体で身体拘束検討委員会を開催し、伝達講習にて共有し理解を深めている。普段より気になる事例があれば都度検討し、行動を見逃さないことを念頭に職員間の共有を図り支援に活かしている。言葉による拘束も職員間で注意し合える関係を築いている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待についての研修で学んでいる。職員同士、注意し合い取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内研修で学んでいる。制度の利用が必要と思われる場合には、施設代表者に相談し支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、重要事項説明書を元に丁寧に説明し、納得頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、入居時に説明している。直接、施設代表者に電話される場合もある。意見があった場合には、事業所や管理者会議で話し合い改善に努めている。</p>	<p>利用者へは普段の会話など関わりの中で確認し把握がなされ実現にむけ取り組んでいる。家族へも普段の電話連絡や面会時に意向や要望を聞いており、面会簿にもコメントを記入できるようにして気軽に意見を出せるようにしている。髪を染めたい希望に美容院へ連れていった事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送り時やミーティング時、意見等を聞いている。電話で直接提案する場合もある。管理者会議で検討し、より良い環境になるよう努めている。</p>	<p>申し送りや毎朝のミーティング、日常の業務の中で意見を伝えることができ、随時職員の思いが表出しやすい環境となっている。意見が出てからは時間を空けないことを意識しその場で話をして解決に繋げている。夜勤者の負担軽減を検討し、業務内容変更も柔軟な対応をしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者会議や研修会、事業所訪問などで状況把握に努めている。研修への参加は積極的に進めている。研修の為、勤務時間の調整を行っている。勤務しながら、資格取得の為の通学もできる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の研修を行い、外部の研修参加時には勤務調整を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>代表者は同業者のネットワークに加入し、訪問研修や勉強会を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前面談時に、本人や家族より、困っている事や要望を聞き一緒に検討している。必要に応じて施設利用までの間、何度か訪問し安心して入居できるよう、関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>施設見学や入居の申し込みがあった時より、家族の困りごとを聞き、解決できるように一緒に考え対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談時には、上司やケアマネに報告し、必要に応じたサービスが受けられるよう対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日頃より、共に生活している事を念頭に、できる範囲での作業や食事の支度など、一緒にしている。作業後は労いの言葉がけをしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や毎月の手紙で日頃の様子を伝えている。面会が困難な場合には、電話の取次ぎを行い、関わりが継続できるよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>感染対策を取りながら、家族や友人の面会をして頂いている。入居したことにより、疎遠だった家族に、毎月、日頃の様子を手紙で伝える事により、電話や小包が届くようになった。</p>	<p>毎月手紙を出すことや家族へ電話の取次ぎを行っている。面会はコロナ禍にて控えることが続く中、来所時に窓越しの面会や誕生日には感染対策を講じ直接一緒に過ごせる時間を作るなどできることを考え実現に取り組んでいる。コロナ禍以前は外泊や自宅近隣のドライブを行っていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性や関係性を考慮し、テーブル席やソファ席を決めている。活動時には、お互いが助け合えるよう職員が間に入り、声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や転居時には、介護情報提供書を作成し、これまでの様子を伝えている。必要時には、家族の相談に乗っている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話や行動などから、利用者の要望等の把握に努めている。言葉での表現が困難な場合には、表情などからくみ取り、職員で話し合い検討している。	日々の生活の中で思いや意向の把握を行い、知り得た情報はその場で職員同士伝達を行い、申し送りノートやミーティングを通して情報共有を行っている。食事などの希望には可能な限り対応に努めている。思いの表出が難しい方へも家族へ確認や本人の様子を汲み取り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の病院や施設、家族やケアマネより情報を得ながら、本人からも情報の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前の情報をもとに、日々の生活の中で利用者と活動や作業をする中、現在の状態を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>センター方式を用いてアセスメントをしている。面会時に日頃の様子を伝え、家族の意見を伺っている。往診時に家庭医の意見を伺い、利用者の意見も伺いながら職員で話し合い介護計画を作成している。</p>	<p>センター方式のアセスメントを実施し、主治医の意見を踏まえ計画作成担当者がモニタリングでの振り返りや確認をしながら立案し職員全員で話し合い作成している。ケアプランも利用者の得意なことが継続できることを視点に作成し、日々のケアに反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日頃の様子や気づき、体調、食分量、水分量、排泄などを個々の生活日誌に記録し、情報の共有や介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>受診や入院時、家族の付添が困難な場合、職員が行っている。入院中の洗濯物など必要時には届けている。買い物の付添をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>散歩や買い物に出かけ、地域の方との交流が出来るよう心掛けている。家族や友人の面会は、感染対策を取りながらして頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前の主治医を希望される場合は継続して頂いている。受診時には付き添いをし、日頃の様子を伝えている。事業所の家庭医には、定期的に往診して頂いている。必要に応じて、紹介を受け専門医を受診している。</p>	<p>利用開始時に主治医の希望を確認し、以前からのかかりつけ医の選択も可能としている。事業所の協力医に変更の際は同意書を得ながら、月2回往診をはじめ、歯科や眼科など必要に応じ医療機関へ紹介し専門科への受診に繋げている。受診は職員が行い日頃の様子を詳細に伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日、看護師に日頃の様子や状態を報告している。状態の変化時には、相談し対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には付添し状態を伝え、介護情報提供書にて、日頃の様子を伝えている。入院中は医師や看護師から病状の経過を聞きながら、退院に向けて準備をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した場合に、利用者と家族の希望があれば、最後まで過ごすことが出来ると説明している。家庭医、職員、看護師と情報を共有しながら支援している。</p>	<p>利用開始時に終末期支援を説明し、状態が変化した際に再度話している。家族の意向をもとに職員全員のミーティングにて主治医と連携しながら支援方法など計画を作成し看取りを実践している。重度化や状態変化に事業所での支援が困難な場合は法人内事業所に転居支援も行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを元に研修を受け、いつでも対応できるよう学んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年二回の避難訓練を行っている。法人全体で連絡網を作り、事業所の近隣に住む他の事業所の職員も駆けつける体制を取っている。</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、その内1回は夜間を想定し訓練を行っている。地域の方にも事前に協力の理解を得ており、有事の際には法人グループの事業所からの支援も得られる体制となっている。水や食料の備蓄も3日分備え、法人本部にも備えを充実させ連携支援体制を構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修で人格を配慮した対応やプライバシーについて学び、日頃より職員同士注意し合いながら対応している。	研修にて人格の尊重やプライバシーに理解を深めている。名前を書いた書類を目の届く場所に放置しないことや着替えを公な場所で行わないなど実践している。声掛けも職員が決めつけた言い方ではなく利用者の思いを引出し、意向やその時の気持ちを確認し行動に移すように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎日の生活の中で、自己決定することの大切さを研修で学んでいる。着たい服や好きな色、飲みたいものなど生活の中で選択し自分で決める事が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の日課は決まっているが、その日の体調や精神状態によりご自分のペースで過ごして頂いている。生活リズムが崩れないよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	持参の洋服を選んで着て頂いている。定期的に散髪し、希望時にはパーマやおしゃれ染をして頂いている。髭剃りが困難な利用者は介助し、身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に食材の準備や盛り付けを行っている。食事は、会話をしながら職員も一緒に摂っている。季節の行事食や誕生日には希望の献立でお祝いしている。味噌汁は毎回出汁からとっている。	食品業者の栄養士が作る献立にて3食手作りで提供している。週2回朝食をパン食とし、毎週火曜日の夕食は刺身の日として職員が計画したり、ホットケーキなど調理レクリエーションを行い食の楽しみを広げている。ケアプランにも食材を切ったり配膳を行うことなどを反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者と共に食事をするにより、摂取状況が観察できる。食事量や水分量は生活日誌に記録し、不足と思われる場合には、捕食や高カロリーの飲み物を摂取して頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い自力困難な場合には介助している。自分でできる方も必要に応じて仕上げ磨きを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。定期的に誘導することにより、パット内の排泄を減らすことが出来ている。夜間は、ベットサイドにポータブルトイレを設置し誘導している。</p>	<p>できる限りトイレでの排泄に努めている。介護記録に排泄の時間や状況を記載しチェックして誘導を行うことで、個別の排泄パターンに沿った支援や排泄の自立に向けた取り組みとなっている。自宅でリハビリパンツを使用していた方も布パンツとパッドの使用に変更できた事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>研修で便秘について学んでいる。毎日、排便チェック表で管理している。水分摂取や運動を心掛け、必要時には処方されている緩下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日、入浴できるよう準備をしている。清潔が保てるよう、最低でも週3回は入浴して頂いている。午後からの入浴で、一人ひとりゆっくりと入浴して頂いている。季節に合わせて、菖蒲湯や柚子湯を楽しんで頂いている。</p>	<p>利用者の入りたい意向やその時の思いに合わせて、本人の希望を尊重し柔軟に入浴の対応を行っている。毎日の入浴希望や夕方に入ることなども可能とし、一人ひとりがゆっくり心地よい入浴が行えるように支援している。季節毎に柚子湯や菖蒲湯など楽しみ入浴となるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>食後には、希望に合わせて一 時間程度休んで頂いている。夜 間良く眠れるよう、日中は散 歩や作業で適度な疲労がある よう努めている。定期的に、シ ーツ交換し布団を干し気持ち よく眠れるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支 援と症状の変化の確認に努め ている。</p>	<p>薬の説明書を個々の生活日誌に 綴じ、いつでも見る事が出来 るようにしている。臨時薬が出 た場合には、申し送りノートに 記入し、症状の変化を観察し 生活日誌に記録している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>利用者の好みや得意な事が活 かせるよう、レクリエーション や作業に取り入れている。職 員も一緒に楽しんだり、教え て頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。</p>	<p>天候や体調に合わせて、事業 所の庭や隣の公園に散歩に出 かけている。希望がある時、 近所のスーパーにマスク着 用で買い物に出かける事も あるが、感染予防の為、今は 控えている。</p>	<p>コロナ禍であり外出は控えて いる状況であるが、庭の畑で 野菜を栽培したり、駐車場 内や近隣の公園を歩き散歩 をしたりと日々の活動を行っ ている。以前では近所のスー パーへ買い物や法人グルー プ内でバスを手配し旅行に出 かけたり、家族と外出や外泊 をしていた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使える ように支援している。</p>	<p>家族より、預り金として出納 帳で管理している。買い物時 には、自分で支払いが出来 る利用者には支払って頂い ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話をかけるときは、子機を使用し自室でゆっくり話して頂いている。手紙の投函をお手伝いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>定期的に窓を開け換気をし、不快なおいがこもらないように気を付けている。強い日差しはカーテンを使用している。室温はエアコンで調節し、廊下との極端な温度差がないように気を付けている。季節の花や壁画を飾り、窓の外の景色で季節を感じて頂いている。</p>	<p>民家を改修した事業所であり、間取りや造りなど普通の家で過ごす感覚で生活が行える環境である。日差しや室温を意識して適宜調節を行い過ごし易いように配慮している。リビングのソファにてくつろげる配置や季節の花や作品を飾ったりとアットホームに過ごせる空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブル席でそれぞれ過ごして頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に自宅より持参された家具を、利用者と家族と相談しながら配置している。好みの置物や飾りをし、利用者の落ち着ける居室作りを心掛けている。</p>	<p>1階に1部屋、2階に5部屋設けられており、どの居室も民家ならではの雰囲気がある。そこに自宅より使い慣れた馴染みの家具など自由に持参が可能である。家具や物の配置も本人や家族と話をしレイアウトを行っており、本人の落ち着いて過ごせる場の環境作りがなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや浴室の表示をし、廊下には手すりを設置している。必要に応じて、居室入口にネームプレートを設置している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい矢野

作成日 令和4年10月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策の充実を図る	自身災害時の対応を検討し訓練する	①年1回地震に対する避難訓練を行う ②運営推進会議で地域との連携について話し合う	12ヶ月
2	〃	〃	備蓄の点検・入れ替え	年2回の避難訓練時に行う	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。